

社会活動報告

社会活動に関する一覧表

活動者名 (所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および新聞名等	活動年月日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	炎症性腸疾患の治療をめぐって 「IBD診療の進歩と近未来像—治る時代へ—」 第25回長崎炎症性腸疾患研究会	長崎大学医学部良順会 館ボードインホール	2009年9月26日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	第2の脳「腸」を知って病気を治す 第58回日本消化器病学会関東支部市民公開講座	霞ヶ浦観光ホテル	2009年9月19日
渡辺 守 (東京医科歯科大学)	IBD診療のシンポと近未来像—治る時代へ— 第6回市民公開講座 —炎症性腸疾患の治療をめぐって—	徳島大学長井記念ホール	2009年5月17日
山本博徳 (自治医科大学)	Mexican Association of Gastrointestinal Endoscopy (AMEG) National Congress in Cancun.	Cancun, Mewico	2009年9月12-16 日
山本博徳 (自治医科大学)	Gastro 2009 combined meeting BSG/UEGW/WCOG in London.	Exhibition Hall, London	2009年11月24日
山本博徳 佐藤博之 新畑博英 (自治医科大学)	しもつけIBD教室	自治医科大学地域医療 研修センター	2010年3月13日
松本主 (九州大学)	第47回小腸研究会 小腸小病変の診断	筑紫会館 (福岡市)	2009年11月14日
松本主之 (九州大学)	第9回Small Bowel Club 小腸内視鏡検査の現状	ホテルグランビア大阪 (大阪市)	2009年11月26日
松本主之 (九州大学)	九州GI Forum 2010 小腸粘膜傷害の診断	ホテルニューオータニ 福岡 (福岡市)	2010年1月16日
松本主之 (九州大学)	第23回IBD Club Hamamatsu 炎症性腸疾患の診断と治療	グランドホテル浜松 (浜松市)	2010年1月30日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	第276回兵庫消化管研究会 講演「感染性腸炎・診断へのヒント」	神戸	2009年6月18日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	第10回長野県大腸疾患研究会 講演「炎症性腸疾患の鑑別診断」	松本	2009年6月27日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	GIフロンティア 講演「虚血性大腸炎」	東京	2009年7月4日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	第15回消化器ざっくばらんフォーラム 講演「腸の炎症10題」	京都	2009年7月18日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	ワンポイント・カンファレンス 講演「便秘異常の臨床」	大阪	2009年8月22日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	木曜会 講演「虚血性大腸炎とcollagenous colitis」	東京	2009年10月8日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	第89回大阪鉄道病院市民健康講座 「腸炎のいろいろ」	大阪	2009年11月24日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	神奈川炎症性腸疾患講演会 講演「炎症性腸疾患の鑑別診断」	横浜	2009年11月27日
清水誠治 (JR大阪鉄道病院)	横浜内視鏡医会第129回集談会 講演「腸疾患における診断のプロセス～症例を中心～」	横浜	2010年2月10日

添 付 資 料

【診断】

- 1) 臨床的にベーチェット病<完全型・不全型>の診断基準を満たす。
 - 2) 回盲部や回腸末端部に、境界明瞭な円形ないし卵円形の下掘れ傾向の強い打ち抜きの深い潰瘍（典型的潰瘍）を認める。
 - 3) 回盲部や回腸末端部に、非典型的潰瘍を認める。
- 1) + 2) または 1) + 3) を、腸管型ベーチェット病と診断する。
2) のみの場合は、単純性潰瘍と診断する。

【除外診断】

腸結核、クローン病、非特異性腸炎、薬剤関連性腸炎、虚血性腸炎、その他原因の同定できる小腸潰瘍。

【付記】

1. 腹痛、血便、口腔内アフタ、皮膚病変、性器潰瘍、関節痛、などは同時に認めるとは限らない。
2. 潰瘍診断には大腸・小腸内視鏡と生検、注腸透視、カプセル内視鏡などが有用である。
3. 本症が疑われる場合、皮膚科、眼科、整形外科、神経内科領域の精査が必要である。
4. 全身症状、腹痛、潰瘍の深さ、出血の有無、血液検査所見（白血球、CRP、貧血の程度）などによる臨床的重症度分類が可能であるが、確立されていない。

慢性出血性小腸潰瘍症
—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症—

<疾患概念>

本邦において非特異性多発性小腸潰瘍症の名称で報告された小腸疾患であり、慢性の小腸出血を臨床的特徴とするため慢性出血性小腸潰瘍症と改称されている。若年時から発症する持続性潜性小腸出血と、それに伴う鉄欠乏性貧血および低蛋白血症を臨床的特徴とし、下部小腸に浅く境界明瞭で輪走・斜走傾向を示す潰瘍が多発する。病理学的には非特異的炎症にとどまり、治癒傾向に乏しい小腸潰瘍である。本症は難治性の臨床経過を特徴とする疾患であり、小腸の非特異的潰瘍の確認のみで確定診断してはならない。

<診断基準案>

- i) 栄養療法期間または腸切除後一定期間(30~40日前後)を除く、便潜血の持続陽性
- ii) 小腸切除標本上の特徴的所見の証明
 - ① 2~4cm 間隔で多発(十分な切除標本上20個以上)し、主として横軸方向に伸びだして広がる境界先鋭で平坦(U-I~II)な地図状潰瘍および幅の狭いテープ状潰瘍
 - ② 栄養療法後の“①”の特徴像がうかがえる治癒期の潰瘍
- iii) ii)の①または②の特徴像がX線検査または内視鏡検査で描出されたもの
 - 近接・多発する非対称性変形
 - 浅く境界先鋭なテープ状潰瘍
 - 枝分れする不整形潰瘍
 - など

コメント [1]: 便潜血の持続陽性(栄養療法期間または腸切除後一定期間(30~40日前後)の陰性化は可)

コメント [2]: 削除?

コメント [3]: ※(切除後も残存腸管に再発)する

コメント [4]: ※(検査所見で貧血・低蛋白血症を認める)

以上の条件のうち、i)に加えて ii) または iii) のいずれかの項目を満たした症例を本疾患とする

※八尾恒良ほか：慢性出血性小腸潰瘍—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症。

小腸疾患の臨床(八尾恒良、飯田三雄編)、p176-186、医学書院、2004

コメント [5]: ※(確診・疑診に分けて基準作成する)

補足

<小腸 X線検査所見>では、

- (1) 充盈像にて、多発する辺縁の硬化像、あるいは湾入による不規則で非対称的な変形を呈する
- (2) 二重造影にて、境界鮮鋭で輪走あるいは斜走する潰瘍、癒合あるいは枝分かたれる潰瘍を呈する

- (3) 病変部位は終末回腸を除く中～下部回腸に好発する
- (4) 潰瘍治癒過程で生じる狭窄も非対象的な特徴を有し、多発することも多い

※Matsumoto T et al: Chronic nonspecific multiple ulcers of the small intestine:
a proposal of the entity from Japanese gastroenterologists to Western
enteroscopists. *Gastrointestinal Endoscopy* 66: S99-S107, 2007

<内視鏡所見（バルーン小腸内視鏡・カプセル内視鏡）>

- (1) 潰瘍は境界明瞭、類円形、線状、地図状などの形態を呈する
- (2) 腸管軸に対して斜走あるいは輪走する傾向を示す
- (3) 腸間膜付着側あるいは対側に偏った局在は認めない
- (4) 狭窄部は同心円状ではなく螺旋状を示し、線状の活動性潰瘍や瘢痕を伴う

※平井郁仁、松井敏幸：慢性出血性小腸潰瘍症—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症—。
小腸疾患 2008 胃と腸 43（増刊号）：603-609, 2008

<外科切除標本の肉眼所見>

- (1) 病変は回腸を主に侵し、中～下部回腸に好発するが回腸末端に認めることはほとんどない
- (2) 潰瘍は数個から数十個と多発し、境界は鮮鋭で、切れ込み様を呈する、比較的浅い潰瘍で、輪走ないしは斜走する形状が多い
- (3) 潰瘍は腸間膜付着側、対側にかかわらず存在し、腸管の長軸方向にずれて走行する、
- (4) 介在粘膜は粘膜集中像がみられる以外は正常
- (5) 腸管壁の肥厚は狭窄部に軽度に認めるのみ
- (6) 膿瘍や瘻孔形成はみられず、腸管相互の癒着も生じない

※八尾恒良ほか：慢性出血性小腸潰瘍—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症—。
小腸疾患の臨床（八尾恒良、飯田三雄編）、p176-186、医学書院、2004

<組織学的所見>

- (1) 潰瘍は粘膜内もしくは粘膜下層にとどまる
- (2) 潰瘍に付随する炎症反応は軽度である
- (3) 炎症細胞浸潤はリンパ球、形質細胞、好酸球浸潤を主とする
- (4) 繊維化は潰瘍部とその近傍に限局してみられる
- (5) 肉芽腫、巨細胞は認めない

※八尾恒良ほか：慢性出血性小腸潰瘍—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症—。
小腸疾患の臨床（八尾恒良、飯田三雄編）、p176-186、医学書院、2004

<鑑別すべき疾患>

(1) NSAIDs 小腸潰瘍

(2) クロウン病

(3) 腸結核

(4) 腸管パーチエット病

※平井郁仁、松井敏幸：慢性出血性小腸潰瘍症—いわゆる非特異性多発性小腸潰瘍症—.

小腸疾患 2008 胃と腸 43 (増刊号) : 603-609, 2008

